

ふくまる通信No.3


令和2年6月15日
茨城県・ふくまる推進協議会

安定収量、大粒生産のための「穂肥」施用について

幼穂形成期の施肥は籾数の増加や登熟向上効果があります。分施肥系では、幼穂形成期に適正量の「穂肥」を施用することで、安定収量の確保と大粒生産に繋がります。

穂肥の窒素施用量は、「コシヒカリ」より多めにすることがポイントです。

○ 穂肥の施用時期、施用量について

<p>穂肥時期</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 出穂前18日（幼穂長5～10mm） ※ただし、この時期に葉色4.5、SPAD値38を超える場合は、倒伏の恐れがあるため穂肥は控えてください。 <p><参考>「ふくまる」の出穂期と穂肥施用時期の目安</p> <table border="1"><thead><tr><th>調査場所</th><th>移植期</th><th>出穂前18日</th><th>出穂期</th></tr></thead><tbody><tr><td>龍ヶ崎市</td><td>4月26日</td><td>6月26日</td><td>7月14日</td></tr><tr><td>水戸市</td><td>5月1日</td><td>6月29日</td><td>7月17日</td></tr></tbody></table> <p>(注) 茨城県農業総合センター農業研究所における平成27年～令和元年の平均値</p> <p>【参考】幼穂の確認方法</p> <p>※生育が中庸な株の主茎または最長茎を数本抜き取ります</p>  <p>よく切れるナイフ等で茎を二つに割る</p> <p>幼穂長5～10mmが穂肥の目安です</p>	調査場所	移植期	出穂前18日	出穂期	龍ヶ崎市	4月26日	6月26日	7月14日	水戸市	5月1日	6月29日	7月17日
調査場所	移植期	出穂前18日	出穂期										
龍ヶ崎市	4月26日	6月26日	7月14日										
水戸市	5月1日	6月29日	7月17日										
<p>穂肥施用量 (窒素施用量)</p>	<p>穂肥施用量は、N1.5～3.0kg/10aとします。</p> <p>【穂肥施用量の算出方法】</p> <p>「コシヒカリ」栽培時に比べて増肥した分（基肥+穂肥の合計窒素量）を、基肥と穂肥に半分ずつ配分します。ただし、倒伏防止のため、穂肥は最大でN3.0kg/10aまでとし、超過分は基肥に回すこととします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>(例) コシヒカリ栽培時に比べて窒素分を4kg/10a増肥する場合</p><table><tr><td>「コシヒカリ」の施肥設計</td><td>⇒</td><td>「ふくまる」の施肥設計</td></tr><tr><td>基肥N3.0kg+穂肥N1.5kg</td><td></td><td>基肥N5.5kg+穂肥N3.0kg</td></tr></table></div>	「コシヒカリ」の施肥設計	⇒	「ふくまる」の施肥設計	基肥N3.0kg+穂肥N1.5kg		基肥N5.5kg+穂肥N3.0kg						
「コシヒカリ」の施肥設計	⇒	「ふくまる」の施肥設計											
基肥N3.0kg+穂肥N1.5kg		基肥N5.5kg+穂肥N3.0kg											
<p>穂肥施用時の留意点</p>	<p>生育不足の場合は、施用時期を2～3日早め、施肥量はN3.0kg/10a以内。生育過剰の場合は、施用時期を4～5日遅らせ、施用量を控える。</p> <p>【出穂前20日頃の適正生育量の目安】</p> <p>草丈65～70cm、㎡当たり茎数500～550本、葉色3.6～4.0程度</p>												